

## 第6学年の実践（国語）情報活用

1 単元名 町の未来をえがこう

教材名 「町の幸福論 ― コミュニティデザインを考える ― 」 東京書籍 6年

2 単元のねらい

○自分たちの町の未来に関心をもち、教材文や本、資料を読んで調べ、その内容を相手に伝えようとする。

【国語への関心・意欲・態度】

○目的に応じて、話の構成を工夫し、場に応じた適切な話し方で話すことができる。

【話すこと・聞くこと】

○目的に応じて、複数の本や資料を選び、比べて読むことができる。

【読むこと】

○目的に応じた文章の構成について理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3 情報リテラシー指導の観点（布勢小学校 令和元年度 情報リテラシー指導体系表より）

○情報を集め、自分の発表に合わせて取捨選択・加工する。（情報の選択 J）

○目的に応じて、話の構成を工夫し、適切な方法でプレゼンテーションをする。（発表・交流 L）

4 単元設定の理由

（1）単元について

本単元の重点指導事項は、現行の学習指導要領におけるA話す・聞く（1）イ「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」および、C読む（1）カ「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」である。

本教材は、コミュニティデザインという考え方の紹介を中心にしながら、大きな二つの視点に基づいて、事例を挙げて分かりやすく述べている。段落ごとのまとまりも理解しやすく、説明内容に対応する写真や図表も、筆者の主張や事例を理解しやすくするために配置されているため、後の表現活動に活用することができる。また、本単元では、自分たちの町の未来についてプレゼンテーションを行うという言語活動を設定している。プレゼンテーションを行うために、必要な情報を集める力を育てるとともに、自分の発表の目的にあわせて、集めた複数の情報を取捨選択したり加工したりし、その情報をいかに効果的に見せ、説明するかという、プレゼンテーションに必要な力も付けていきたい。

（2）児童について（略）

### (3) 指導にあたって

#### ゴールの設定

本単元では、『町のよさ、人とのつながりを生かした取組を提案しよう』という言語活動を単元のゴールとして設定する。町のよさを十分に感じながら、その上で地域の課題に触れたり、町づくりに熱心に取り組んでおられる方々と出会ったりする中で、自分たちが目指す町の姿について考え、提案したいという意欲を高めたい。また、実際に実現可能なものにするために、地域振興や町づくりの中心となる方々を対象にプレゼンテーションを行うというゴールを設定することで、より相手意識をもって学習に臨むことができると考える。

#### グループトーク

文章や情報の読み取りに関して個人差が大きいことや、自分の考えを表現することに対して自信がない児童が多いことなどの実態から、課題をチーム毎に設定し活動することとする。グループ内で情報を共有したり、必要な事柄を確認し合ったりすることで、互いにサポートし合い学習を進めていきたい。様々な地域の資料・情報が集まった後、それらの情報の取捨・選択の際、グループトークを積極的に取り入れる。自分一人の考えではなく、友達の意見を聞くことで多面的なとらえ方ができたり、さまざまなものの見方・考え方ができたりするのではないかと考える。

#### 総合的な学習の時間との関連

本単元は国語科として学習を展開すると共に、総合単元として扱い、他教科等、主に総合的な学習の時間との関連を図りながら学習をすすめる。

総合的な学習の時間では、「地域の伝統を受け継ごう」の単元の中で、布勢地区の町づくりやたたら製鉄について学習を行うこととしている。特に、布勢地区内の町づくりに関わっておられる身近な方々の思いや夢などについて実際に触れる時間をもつことで、子供たち自身が刺激を受けたり未来の町づくりに関心をもったりするきっかけとなると考える。また、現状の課題や改善点を知り、どうすれば未来の町づくりにつなげることができるのかを調べる活動につなげたい。地域・活動に対する体験や知識の差も大きいため、地域で活動をしておられる方に話を聞いたり、実際に出かけたりするなど、調べ学習の時間を十分に確保し、さらに学習を通して「ひと」や「もの」との出会いを大切にしていきたい。

#### 三者の協働

本単元は、担任、司書教諭および学校司書が協働した授業を展開する。

本単元の導入前に三者で話し合い、単元の流れや役割分担、身に付けさせたい力等を明確にする。また、主に司書教諭、学校司書で課題追求に適した資料の選定を行ったり、インターネットを用いる場合のために、パスファインダーを作成したりする。

単元の導入時には、司書教諭によるプレゼンテーションを行う。このプレゼンテーションは、最終的に発表で用いる形式と同様のものとするすることで、児童がゴールのイメージをもちやすいようにしたい。

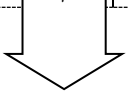
5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・自分たちの町の未来に関心を持ち、プレゼンテーションをするという学習課題に取り組もうとしている。	・プレゼンテーションの校正を工夫し、取り上げる事例と考えたことや伝えたいことを整理して、場に応じた適切な話し方で話している。 ・話し手の意図をとらえながら説明や提案を聞き、助言をすることができる。	・コミュニティデザインに関する本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。	・目的に応じた文章の構成を理解している。

6 単元の指導計画と評価計画（全13時間）

時間	学習活動	教師の指導・支援 (●担任◆司書教諭◇学校司書)	評価規準及び 評価方法
一次 1時間	○学習のめあてを知り、学習計画を立てる。 ・自分たちの考える町づくりについてプレゼンテーションをすることを示し、そのための筆者の工夫に着目できるようにする。 ・学習計画を立てる。	●◆◇ 単元を通して自分たちの考える未来の町づくりについて地域の方にプレゼンテーションを行うという学習課題を確認する。 ◆◇布勢の発展のために、地域の方や先人がどのような願いをもっておられるか思い起こしたり触れたりすることができる資料を提示する。 ●◆◇ 学習のゴールや学習計画についてプレゼンテーションスタイルで提示することで学習のゴールの見通しをもたせたい。	☆町づくりについて関心を持ち、単元のゴールとなる言語活動（プレゼンテーション）について理解し、進んで学習に取り組もうとしている。【関意態】（ワークシート・行動観察・発言）
二次 4時間	○「町の幸福論」を読み、本文の内容を読み取る。 ・本分を通読し、序論・本論・結論の文章構成をとらえる。 ・文章の内容を読み取るとともに、図表などの資料の用いられ方とその効果を確認する。	●プレゼンテーションを行うという学習課題を踏まえ、筆者の主張や内容に加え、どのような情報や資料を用いて説明しているのかについても意識を向けられるようにする。 ●文章構成図を手がかりに、序論・本論・結論の構成を確かめ内容を読み取る。	☆目的を意識して、効果的な読み方を工夫して文章を読んでいる。【読】（発言・ノート） ☆目的に応じた文章の構成について理解している。【言】（ノート・発言）

並行読書・インタビュー

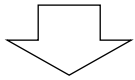


	<p>・文章の要旨を読み取り，筆者のメッセージを踏まえて，町の未来についての自分の考えをもつ。</p>	<p style="text-align: center;">並行読書・ インタビュー</p> <p>●本論で示されている事例について，図や表などの資料の効果やよさについてまとめることで，実際に行うプレゼンテーションの資料提示につなげる。</p> <p>●自分たちの町にはどのような「人のつながり」があるのか，また，どのような「人のつながり」の中にいるのか考える。</p>	<p>☆プレゼンテーションを行うという目的を踏まえ，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえ，自分の考えを明確にしながら読んでいく。【読】（発言・ノート）</p>
<p>三次 6時間 本時 4/6</p>	<p>○本や資料などから情報を集め，町の未来についてプレゼンテーションを行う準備をする。</p> <p>・町の現在と未来について考える。（全体）</p> <p>・提案するテーマ・内容を決める。（グループ）</p> <p>・必要な情報を選び，構成メモを考える。（個人）</p> <p>・<b>収集した情報を整理して，発表内容とプレゼンテーションに必要な資料を考える。（グループ）※本時</b></p>	<p>●◆◇自分たちの町にはどんな課題があるか，どんな取組が行われているか，自分たちの町をどのような町にしていきたいかなどの観点に沿って話し合わせる。</p> <p>●◆◇調べ学習の途中で，集まっている情報について共有し，情報の共通点や傾向を考え，提案の見通しを立てさせることでその後の情報収集に役立たせたい。</p> <p>◆◇提案するテーマや内容に合わせて</p>	<p>☆目的に応じて，本や資料などから複数の情報を集め，関係付けて活用している。【読】（発言・ノート）</p> <p>☆調べて分かったことや考えたことを関連付け，発表の内容や必要な資料を考えている。【話聞】（行動観察）</p>
	<p>・プレゼンテーションの構成を考え，必要な資料を作成して，発表の練習を行う。（グループ）</p>	<p>て有効な資料の提示を行う。</p> <p>●◆◇関係付ける観点として，教材文で述べられていた「人と人とのつながり」を生み出すことにどうつながるのかということを考えさせる。</p> <p>●◆◇提案に関係のある内容だけに絞って事例を説明する話例を取り上げ，事例について話す内容や資料を絞る必要性を理解させる。</p>	

四 次 2 時 間	○プレゼンテーションによる発表を行い、意見の交流を行う。	●◆◇ 聞き手の反応を確かめながら話すようにする。	☆聞き手に意図が伝わるように、話の構成や資料の見せ方を工夫して話したり、話し手の意図をとらえて自分の意見と比べながら発表を聞いたりする。【話聞】(プレゼンテーション・発言・行動観察) ☆発表内容を考えるという目的に応じて、複数の情報を活用することを理解している。 【読】(発言・ノート)
	○効果的なプレゼンテーションを行うことができたかを振り返る。		
総合的な学習の時間	○地域の方へプレゼンテーションをする。	町のよさ、人とのつながりを生かした取組を提案しよう。	

7 単元構成モデル

布勢の幸福論 ～ 布勢の未来の町づくりについて考えよう ～



国語（9月）

「資料を生かして呼びかけよう」  
・自分の意見が効果的に伝わるように資料を活用して書く。

国語科（10月）

「町の未来をえがこう」  
・町の未来について考え、資料を効果的に活用する。  
・プレゼンテーションをする。

道徳（10月）

「町おこしプラン」  
・町のよさについて話し合う。  
・大切にしていきたいことを考える。

総合的な学習の時間（10・11月）

「地域の伝統を受け継ごう」

☆布勢地区の町づくりについて探ろう

①町の取り組みについて知ろう

【つかむ】

・町づくりの活動について調べたり、携わっておられる方の話を聞いたりする。

【調べる】

・実際に今の町の様子を見て町づくりに関心をもつ。  
・他の町の取組について資料を用いて調べる。

②町づくりについて提案しよう

【まとめる】

・課題解決のために資料を用いてグループで調べる。

【伝える】

・町のよさ、人とのつながりを生かした取組を提案する。

☆布勢地区の歴史（たたら製鉄）について学ぼう

・たたら製鉄とは  
・地域の野だたら見学  
・たたら体験学習  
・活動の振り返りとまとめ

☆町の未来について、考えたことを意見文にまとめよう。



(3) 本時の評価

A 十分に満足できると判断される児童の具体例	B おおむね満足できると判断される児童の具体例	→支援を必要とする児童への指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>調べて分かったことや考えたことを関連付け、より説得力のあるものを根拠をもって選ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案内容に応じたよい事例や資料を選択し、理由を伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの資料が効果的か選べない。</li> <li>→資料毎によい点を一緒に考え、どの資料が必要か一緒に選ぶ。</li> </ul>

(4) 研究の視点

- 一人一人が考えをもってミニプレゼンを行い、グループで構成メモについて話し合う活動は、効果的な資料の活用や提案内容を深めるのに有効であったか。
- 地域の方へのインタビューや地域資料の活用など、総合的な学習の時間と関連させて学習したことは、未来の町づくりに関心をもち学習に取り組むのに効果的であったか。

9. 公開授業における研究協議の概要

参加者	校内 13名、校外 13名 計 26名
授業及び 研究協議の 概要	<p>グループで決めたテーマについて、一人一人が選んだ事例を互いに伝え合い（ミニプレゼン）、グループで提案内容にあった資料や事例を決める活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人のミニプレゼンにはそれぞれ思いがあり、その中からグループで適切な資料や事例を絞り込み、一つ選ぶというのは難しかった。</li> <li>未来の町の姿について、一人一人が現在の町の様子を見つめ直し、よさや課題をとらえることができていた。</li> <li>資料選びのポイントを「より説得力のあるもの」としていたが、もう少し明確にしておく必要があった。</li> <li>担任、司書教諭、学校司書の連携により、一人一人の思いに寄り添い、声かけや資料の準備ができた。</li> </ul>